

屏風で語る「イエスの生涯」

本館展示「朝鮮半島の文化」(標本番号H214475) 幅340cm 高さ162cm

朝倉 敏夫

民族社会研究部

韓国では儒教の教えが根付いており、「孝」の証として、四代上の祖先まで、その命日には家庭で祭祀がおこなわれる。この儒教式の祭祀では、祖先にご馳走を供え、その後ろには儒教の教えを書した屏風が

りに使われることがある。

この屏風には「イエスの生涯」が描かれており、写真にあらわされている絵は、右から「病者を治すイエス」「最後の晩餐」「祈禱するイエス」「裁かれるイエス」である。絵の下にはそれぞれ聖書の二節「マタイ四章三節」「箴言一七章一節」「ルカ二二章四四節」「ルカ二二章三三・三四節」がハンゲルで書かれている。



キリスト教徒の家庭の多くが、こうした屏風をもっているとはいえないが、儒教社会の韓国にキリスト教が布教され、土着化する過程で創り出されたものと考えられ、韓国のキリスト教の一端を示す資料と考えられる。

立てられる。

キリスト教では、こうした祭祀を偶像崇拜であるとして認めていないが、命日には追悼礼拝をおこなうことが多い。そうしたとき、表紙の写真のような屏風が儒教式の屏風の代わ

ソウルの江南にある高速バスのターミナルの向かいには「キリスト教百貨店」があり、キリスト教関連のグッズがたくさん売られている。この屏風も、そこで購入したものである。